

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200390		
法人名	医療法人なごみ会		
事業所名	酒井医院グループホームなごやか	ユニット名	東棟
		ユニット名	西棟
所在地	佐賀県唐津市鎮西町名護屋4198		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年11月25日	外部評価確定日	平成21年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様や御家族の希望にそえる利用者主体のサービスを提供できるよう職員が協力して取り組んでいます。また、医療との連携体制も整っており健康面の支援にも注意して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

チームワークの良さが事業所の雰囲気をもたらし、利用者には穏やかな笑顔が見られる。また、職員の意識には「何が利用者にとってベストなのか」と常に考えるベースが出来ているため、その思いは質の向上へと繋がっている。経営母体の医院との素早い連携は家族の安心にもつながっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で「地域とふれ合い貢献します」という理念を作り、玄関などに掲示して地域の中で穏やかに笑顔で生活するということを意識して取り組んでいる。	管理者と職員で「地域とふれあい貢献します。」を理念に玄関に掲示すると共にホームの案内やホームたより等で日常目に触れるようにしている。笑顔での挨拶を率先して実行し地域で生活することを意識して取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し、地域を意識した法人としての理念を作りあげている。開所して5年目に入った事業所が、より地域に根ざしていけるようにとの思いで日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元での買い物や散歩の時など積極的に挨拶をしている。回覧板を利用者様と一緒に持って行ったり、小学生との交流や地元の祭り、文化祭の参加もしている。	できるだけホームの近くの商店や薬局、医院等を利用し、なじみの関係づくりに繋がっている。	地域住民の一員として、地区の行事などの活動へも参加している。買い物や散歩は日常的に行われ、近隣に住む人達とふれあう機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者を常時受け入れ入居者もできるだけ敷地外へ出かけ理解へ繋がるよう支援している。また、併設の居宅やデイサービスで積極的に認知症の方を受け入れている。	敷地外への外出を積極的に行い、外来者の受け入れも常時実施している。併設の居宅やデイサービス事業で積極的に認知症の方を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者が多く、積極的に意見をいただき熱心な意見交換ができ、それをサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回ホームたよりを発行しており日常の様子が分かりやすいように写真を多く取り入れ会議でも資料として提供している。外部評価結果は毎年議題に取り上げ報告と意見交換を行っている。委員は積極的に参加され活発な意見を頂きサービス向上に繋げている。	会議を、地域の理解と支援を得るための貴重な機会と捉えると共に、出された率直な意見は職員全体で話し合いサービス向上へと繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員、認定調査員に来所していただいている。更新手続きは主に管理者やケアマネージャーが行っている。	介護相談員を受け入れると共に認定調査員の訪問や運営会議の委員に介護保険課、福祉課より各1名ずつ参加をお願いし情報交換や相談等得やすくなっている。	行政の担当者も運営推進会議のメンバーであることから、顔なじみでもあり、事業所からの相談にも実直に応えてもらえる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料の配布や勉強会で理解を深めるようにしている。日中は施錠はせず見守りで対応している。	「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を事務所に掲示し常時確認できるようにしている。原則身体拘束はしないことで事故防止できる日常のケアの工夫に取り組んでいる。ご家族にも理解と協力を求めている。	利用者一人ひとりの外出の傾向をつかみ、見守りに徹している。また「身体拘束となる具体的な行為」の掲示をし、注意喚起をしたり、知識と技術を高めるための勉強会も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の配布や勉強会を行っている。また、利用者様の皮膚の状態など注意して観察し怪我などがあれば原因を明らかにするようにしている。	定期的に勉強会を実施すると共に外部研修に積極的に参加しお互いの意識の向上に取り組んでおり、小さなアザや傷など見逃さないようにお互いが注意し報告し合っている。ご家族への報告をマニュアルとしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居時に説明して活用できるように支援している。また、外部研修等に参加し学ぶ機会を積極的に増やしている。	入居時に利用者へ説明すると共に外部研修で学ぶ機会を設け実際安心サポートの利用に繋がっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が相手の意見を確認しながら行っている。実際にホームを見ていただき細かなところにも注意して確認している。	管理者が文書を基に一元的に説明を行うと共に入居前にホームの見学をしていただき納得をされたことを確認後契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。入居時に苦情相談窓口の説明をしている。意見については話し合いをして対策を考え実施している。	面会時や電話連絡等積極的に意見交換を行い反映できるようにしている。また、普段よりよい関係づくりに努めると共に意見箱を玄関に設けご意見をいただけるように工夫している。	日頃から話しやすい雰囲気作りを心掛けています。また、意見箱の設置や外部に市町村の相談窓口がある旨も伝え、出された意見や要望等には真摯に向き合いサービスの質の向上へと繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は随時聞けるようにしている。定期的な会議や面接なども聞く機会としている。	日常話しやすい関係づくりに努めると共に定期的な会議や意見交換の機会の設定をしてよりよい運営の反映に繋がるようにしている。	コミュニケーションを図ることにより、日頃から職員との意思疎通は出来ている。更に、定期的な会議や2カ月に1度の面接等もあり意見を聞く機会が多く、現場の声の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を取り入れている。	目標管理制度を導入し向上心に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内や参加のための勤務調整をしている。研修費助成制度がある。	研修の案内は漏らさず回覧し勤務時間の調整を行いやすい人員の採用と、研修助成金制度等を設け常に学びあえる職場であるように人材育成に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入っている。地域のグループホーム職員が集まる勉強会に参加して意見交換やネットワーク作りをしている。	県GH協会に入会している。地域のGH職員対象の勉強会への出席を奨励し自ら情報収集に努めるなどネットワークづくりに取り組みサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーとの連携や、センター方式を活用している。	できるだけ早期に面会し意見交換等ができるようにケアマネジャーと連携しながら関係づくりに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅へ訪問させていただき話をしたりして関係づくりに努めている	自宅訪問するなど直接面会し、傾聴の姿勢で関係づくりに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴の姿勢で面談し、往診や薬局など必要なサービスを希望を確認、復唱し利用に繋げている。	センター方式でアセスメントし総合的に見極め必要な支援に繋がるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の存在意義を理念に掲げわからないことや生活の知恵など利用者様から教えていただいたり話を聞かせていただいたりして共同の生活を目指している。	ひとり一人の存在意義を理念に掲げ役割分担に繋がっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に協力していただけることは協力していただいている。小さなことでも連絡をとり、共に支えていくよう努めている。	本人を中心に家族、職員、主治医、サービス事業者等連携し支えていることへの理解や協力をおねがいしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブがてら自宅に立ち寄ったり、なじみの商店での買い物や美容院など希望に沿うよう支援している。	ドライブや買い物、生活の場所等を把握し個別に対応している。	日々の暮らしをこれまでの延長線上と捉え、馴染みの商店や美容院の利用はもとより、自宅への立ち寄りなど積極的なアプローチをしながらつながりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方などは職員が間に入り会話していただいたり、それぞれに役割を持っていただき利用者様同士が自然と関わり支え合っておられる。	利用者同士の関係には常に注意しできるだけ一緒にお茶に誘う等よりよい関係に繋がるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問したり電話や手紙などで連絡を取っている。	状況に応じ訪問や電話等で継続支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活暦を基に本人や家族の希望を聞いてできる限り努めているが、利用者様とゆっくり話す時間を増やすことでもっと思いを引き出し知ることができるのではないかと考えられる。	傾聴の姿勢で常に本人が楽しめる生活を支援できるように検討している。	利用者の体に触れながら同じ目線まで腰をかがめ、より確かな思いを汲み取ろうと努めている。これまでの暮らし方を理解し、常に傾聴の姿勢がみられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦は入居時より本人、家族、これまで利用されたサービス事業所などから聞き取り情報収集している。	生活暦はその人を支える上で重要と考えており生活環境等家族やケアマネジャー等情報共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との関わりの中で、よく観察し把握するようにしている。また、職員間での情報交換をしている。	定期的に見直し評価し現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、職員間での話し合いをもとに作成している。	最低1月に1回モニタリングし概ね6ヶ月に1回担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。	月に1度のヒヤリングや6ヵ月毎の見直しはあるものの、日頃の関わりの中でも本人やご家族の思いを察知しようと努めている。また、変化や気づきがあれば全体で話し合い、臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や細かな気づきなど個別に記録し口頭での申し送りも行い情報を共有し取り組んでいる。	日常の様子やケアの実践状況等個別に専用に記録し職員間で情報共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の援助やPT、OTのリハビリなど状況に応じて行っている。	個別対応を重視し環境調整し状況に即した対応に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のゲートボールチーム等に参加を許される。あんしんサポート(通帳管理)を利用される等フォーマル、インフォーマル両面での支援に努めている。	地元の職員や運営推進委員より地域の情報を得、豊かな生活に繋がるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の納得が得られた医療を受けられるようにしている。家族に電話で確認をとるなどしている。	入居時に主治医の希望の確認をすると共に状況に応じ家族と連絡し意志を確認し適切な医療に繋げている。	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また受診の際にはご家族の同行例が多く、結果に関する情報の共有もできている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな気づきなど看護師に相談し、アドバイスをを受けたりしている。	常勤の看護職員が同一職場内におり日常的に共同支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や家族と連絡をとり情報交換している。	入院中はご家族に理解を求め面会等一緒に同行するなど病院関係者との情報交換に繋がるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族から希望を聞き記録している。事業所のできることを説明しており、医師と家族の話し合いもされている。	重度化や終末期については入居時より話し合い随時確認して支援に繋げている。	重度化に伴う意思の確認と、事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。気持ちの変化があれば、その都度、話し合いを繰り返しながら安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しているが実践力を身につけるためには訓練が必要。	定期訓練を実施して実践力に繋げるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練をしている。近所の方など地域の方に協力を依頼している。防災無線を設置している。	定期訓練を実施している。自治体の理解があり、防災無線が設置され、地域の消防団にも協力を得られる体制ができています。	防災無線が設置されており避難訓練も年2回実施されている。近所の人達や地元消防団との協力体制も出来ている。	最悪の事態を懸念しながらも、未だマニュアル作り等は手探りの状態である。訓練を実施する中での気付きには、その都度、対策も取られているので、今後も更なる努力を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様づけ、丁寧な言葉かけを心がけ対応している。	様付けや丁寧な言葉使いを心がけ人格の尊重やプライバシーの保護に繋がるように努めている。	本人を傷つけることのないように、さりげないケアを心掛け、プライバシーにも配慮している。また、「様」付けの後に乱暴な言葉は出ないという考えから、これを実行し、その効果として利用者を尊重する気持ちが生まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人に決めていただけるように言葉かけなど対応している。また言葉で表せない方は表情などに注意して接している。	本人の意思表示や確認ができるような言葉かけや対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり言葉かけ確認しながらペースに合わせ支援している。	状況毎に本人の意志を確認し、職員のペースにならないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って支援している。美容室など希望される店に行けるよう支援している。	服の好みや髪型等出きるだけその人らしさができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや食べたいもの、食事の感想を聞いたりしている。準備や片付けも一緒にしている。	食事の好みはできるだけ細かく対応している。準備や片付けはそれぞれに役割分担ができています。	好き嫌いを把握し、好みには出来るだけ対応している。準備や片付け等も利用者と共に、調理での音や匂いは良い五感の刺激となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況、水分摂取量を記録している。食事の形態や時間を変えるなどして対応している。	常勤専従の栄養士が献立を作成し主治医とも確認を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助など一人ひとりの能力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけや介助など能力別に口腔ケア援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録をとり排泄パターンを把握し、声をかけたり誘導するなど支援している。	専用の記録用紙を作成し個別の状態を把握し支援に繋げている。	排泄の記録により、個別に時間を見計らっての誘導や自尊心に配慮したさりげない介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が多い献立や食べ物を消化しやすい形に変えたり、水分摂取を促している。	排泄パターンより野菜の多い食事や水分マッサージ等ケアで工夫して便秘対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声をかけ時間など希望を確認してできる限り希望に沿えるよう支援している。	入浴は毎日いつでも可能でありそれぞれのパターンができています。	入浴したい日や時間に合わせた支援が出来る。仲の良い方同士の入浴など利用者の希望が優先されている。どうしても拒まれる場合は無理をせず足浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や状態を見ながら休んでいただいている。	職員それぞれが量やベッド等状況で対応し安眠が提供できるように心がけて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はいつでも確認できるようファイルしており、目的などの理解に努めている。薬の変更があった時などは特に状態の変化に注意している。	薬状は入居者それぞれ個別にファイルされ常時確認し二重チェックするなど誤薬にならないように細かい配慮し変更時等一覧表を作成するなど状態の変化に注意して与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からの情報を活かし、ドライブや買い物、おしゃべり等、それぞれに支援している。	ドライブ、買い物等支援すると共にホーム内の行事にも力を入れており入居者の楽しみの一つになっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り時間や場所など希望に沿えるよう支援している。	日常的に外出支援している。定期外泊等の協力にも繋がっている。	外出をこれまでの生活の継続と捉え、気分転換やストレスの発散、五感の刺激にもなっている。時間帯や行き先は出来るだけ希望に沿い、当たり前のこととして支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している場合でも支払いのときは自分でしていただくなど、できることはしていただくように支援している。	能力に応じ多様な金銭管理援助に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により常時支援している。難聴の方は職員が間に入って会話される。	電話は事務所の電話を無料で常時使用可能になっている。できるだけ直接本人の声が聞けるように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光など不快感を感じておられないか注意している。花や貼り絵、工作物、写真などがざったり、季節の果物を置いたりしている。	音や光、温度など注意して快適な空間づくりになるよう援助している。	建物のデザインで自然光や風は自由に取り込めるようになっている。玄関のクリスマスツリーが季節を感じさせ、この時期は室温も一定に保たれている。不快な音は無く、どの共用空間も清潔で臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下、ウッドデッキ、玄関にソファやイス、ベンチを置いている。	食堂では席が決まっており、居室前のソファや畳スペース等それぞれの好みで活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具など居室は特に制限無く持ってきて使っていただいている。	居室への持込は原則制限無くそれぞれ個性的な居室になっている。	居室への持ち込みには原則制限はない。利用者と相談しながら馴染みの品を活かして居心地よく暮らせるように支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台など高さや広さを変えてある。手すりを付けてある。トイレの目印をつけたり自動で電気がつくようにしている。	自立支援を前提に常にできることが広げられないか評価しながら援助している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない